日中の学生が手を携え、少数民族の子どもたちに大きな「夢」のプレゼント!

第2回 支援校児童劇巡回公演 実施報告

日中の劇団と協会がタッグを組み、支援小学校5校を巡回した昨年の児童劇公演事業。第2回目の今年は、6小学校での公演が実現しました。その全公演を陰ながら支えたのは、日雲の大学生ボランティアです。昨年に続いて参加した立命館アジア太平洋大学（APU）“笑xiao”メンバー9名に加え、雲日国際大学生協力会の中国人学生6名が、様々なハプニングを乗り越え、公演を成功に導きました。その活躍ぶりは、劇団道化の篠崎省吾理事長をもって、「学生たちがいなければこんなに上手くいかなかった」と言わしめるほど。2週間余りの公演を通し、日雲の学生たちは泣いて別れを惜しむ程の絆も育みました。更に今年の公演では、劇団道化の若手メンバーが中国語の演技を披露。日中の若い力が一丸となり、生の演劇に触れる機会のなかった子どもたちに“特別な時間”をプレゼントできました。

プロジェクトチーム（順不同・敬称略）
【劇団道化】篠崎省吾理事長、中村芳子副理事長、永井亜紗和、野村勇作、山本美侑、楠瀬規夫、小村共悟
【日本雲南聯誼協会】林娜
【ボランティア】庄司智哉、小田猛、杉谷謙次、山田佳典、望月昭宇、金田美穂、川崎由加里、長谷川友愛、鶴岡紗季
（以上立命館アジア太平洋大学“笑xiao”）、
王寧、趙聡、華雨、李媛、豊奕雯、銭美珠（以上雲南大学滇池学院）、
大塚健史、大友滋敦
【報道関係】久永健志（西日本新聞社中国総局長）
【日本在中国大使館】三上正裕、早乙女尚
その他現地政府、教育局、小学校関係者、先生方たくさんの皆様

2週間余りの共同作業を通じて、日雲の学生たちの心はひとつに

2013日本雲南聯誼協会支援小学校児童劇巡回公演
演目：NPO法人劇団道化「変変変」「3びきのコブタ」

9月2日	白雲小学校（支援11校目）
9月4日	藤誼小学校（支援4校目）
9月5日	遠福中心小学校（100万回手洗い）
9月6日	匹河中心小学校（100万回手洗い）
9月9日	両勒小学校（支援22校目）※雨天のため途中閉幕
9月12日	清平小学校（支援18校目）
9月13日	布京小学校（支援24校目予定）※悪天候の影響で公演断念

子どもたちとも、とことんふれあいました!

雨なんてなんのその！ 心が通う、特別な瞬間

感動をありがとう!

公演前半に回った4校は奇しくも全てが「100万回手洗いプロジェクト」の支援校。
今回、株式会社ビックメイドミュージック・江藤雅樹社長のご厚意で、
4校全てに石鹸と石鹸ネットを贈呈しました。

アジア未来への人材プロジェクト

日雲の大学生、初めての交流会開催

児童劇公演の合間を縫って参加した“笑xiao”メンバーは元気一杯

児童劇公演事業の合間、9月7日に開かれた交流会に参加したのは、中国側から雲日国際大学生協力会の学生37名、日本側はAPU“笑xiao”の学生9名、そして協会ボランティアの宇都宮大学大学院・鄭思宇さん、東京女子大学・店網華子さん。大学生同士の交流は初めての試みでしたが、最後には日雲双方の学生から「毎年恒例の行事にしていきたい」とのリクエストが出るほどの盛り上がりを見せました。

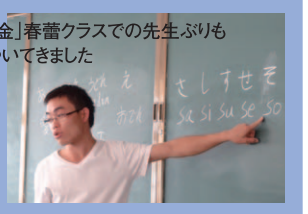
“笑xiao”は2008年の設立以来、毎年のように協会支援小学校を訪れ子どもたちと交流してきたものの、大学生と接するのは今回が初めて。メインの交流では、伝統の中国結び作りや「蛙の歌」の輪唱に全員でチャレンジし、「同世代の学生と交流できて面白かった」「日本の大学生とまったく違う生活に驚いた」と話してくれました。雲南側の学生たちも、日本人学生とふれあうのは初めての人が多く、交流会後の懇親会では質問が止まりませんでした。

司会を務めた李彦博さん（滇池学院4年生）は、ユーモアたっぷりに会場を盛り上げました。雲南師範大学・白蕊先生の開会宣言の後、雲南側代表として協力会の張哲会長（滇池学院3年生）、“笑xiao”の小田猛代表と川崎由加里副代表が挨拶しました。

中国結びを紹介するのは司会の李彦博さん。もちろん日本語ですよ!

人生初の輪唱に四苦八苦。日雲双方の学生にとって忘れ難い時間となったようです

雲日国際大学生協力会・新代表からのご挨拶



「夢基金」春蕾クラスでの先生ぶりも板についてきました

今年度会長に就任した張哲です。

新学年度が始まった9月以降も、私たち協力会は、聯誼協会の様々な活動に参加しています。日頃から日本語を勉強している私たちにとって、協会でのボランティアはまたとない実践の機会です。協会活動への参加を通じて、日中の民間交流促進に貢献しているという実感もあります。

9月初旬の児童劇巡回公演では、2週間にわたって、日本の大学生ボランティアと協力しながら田舎の子どもたちに喜びをプレゼントし、その視野を広げました。雲南と日本の大学生が言葉の垣根を越えて交流する大学生交流会も開催し、相互理解を深めました。「25の小さな夢基金」春蕾高校クラスでの日本語授業ボランティアでは、学ぶことに貪欲な生徒たちから刺激を受けるとともに、聯誼協会の活動意義を再認識しました。

これからも私たち協力会は、皆で協力し合い、助け合って、雲南と日本をつなぐ本当の架け橋になりたいと思います。

（張哲＝雲南大学滇池学院3年生）

速報! 第2回日本文化理解研修無事終了!

日本語を学ぶ雲南の大学生を対象に実践的なビジネスマナーを教える「日本文化理解研修」の第2回が11月6日、無事終了。昨年に続いて講師を務めた滝澤崇さんが、6日間かけて3大学100名余りの学生に熱弁をふるいました。詳細は次号でご報告します！

「小さな壁新聞プロジェクト」 2年越しの"お返事"に、子どもたちの瞳輝く

通算3号目となる日本版壁新聞を作ってくれた市川市立南新浜小学校に、9月27日、雲南の子どもたちが作った壁新聞をお届けしてきました。お届けしたのは協会支援第20校「后山小学校」の子どもたちが作った雲南版第5号目。后山小の子どもたちは昨年9月、南新浜小の子どもたちが作った壁新聞を受け取っており、今回はその"お返事"をお届けするかたちとなりました。

また、10月8日には、多摩市立多摩第二小学校にも同じ壁新聞をお届けしました。多摩第二小は日本版壁新聞5号目を作ってくれた学校です。かつて雲南の支援小学校に日本版壁新聞を届け、今回の二校の訪問にも立ち会った会員の平田栄一さんは「子どもたちが目を輝かせる瞬間に日本と雲南の両方で立ち会えたことがなによりも嬉しい」と話してくださいました。日本と雲南、子どもたちの心は確実に通い始めています。

【訪問者(順不同・敬称略)】奥脇弘久、平田栄一、大鷲修平、初鹿野恵蘭

教室に集まってくれたのは、2011年に壁新聞を作ってくれた南新浜小学校の現5年生

◀2年越しの"お返事"に、子どもたちの目は輝きます

▼多摩第二小学校では佐島規校長先生が壁新聞を受け取ってくださいました